

CFI.co

コンコード インターナショナル インベストメンツ グループ会長

モハメド・S・ユネス

エジプトの時代が到来した。数年前には投資家の関心が皆無に等しかったこの国へ、投資家が押し寄せている。「今、人々は私たちのところへ来ている。」と話すのは、コンコード インターナショナル インベストメンツ グループの会長を務めるモハメド・S・ユネス氏。ニューヨークを拠点として 1988 年に設立された同社は、1994 年にエジプトに進出し、エジプト中央銀行から初めて正式に認可を取得した海外ファンドである。

ユネス氏は、企業や機関投資家がエジプトへ戻ってきていると嬉しそうに話す。「この国への関心はここ最近非常に高く、売りよりも買いが続いている。」エジプトで大きな足跡を残してきたコンコードグループは先日、エジプト株式のみに投資する新ファンドを同社のラインナップに加えたばかりである。このファンドは 2 億～3 億米ドルを予定しているが、既に複数の投資家が購入意向を表明している。



「経済の減退期を経験した過去数年は対応に追われていた。しかし好機が到来し、我々が報いを得る時がきた。」ユネス氏は、コンコードグループがエジプトの急速な経済回復を最大限に享受する準備が十分にできている点を強調する。「先日シャルム・エル・シェイクで開催された投資家会議では、エジプトは再び投資対象国となった。それはまるで、約 50 年も続いたかの様な不景気の終わりを予告しているようだ。」

以前の政権も同様の経済発展施策を試みたものの、ユネス氏は、現政権にはその果実を得るに必要な耐久力があると確信している。「実際に結果がついてきている。」それは経済会議中に提案された代表的なプロジェクトであるスエズ運河拡張事業を例にとっても明らかである。同事業はスエズ運河に平行して新運河を建設することで双方向進行化を可能とするキャパシティ拡大を図る大規模な事業であり、通常このレベルの事業は完成までに長い時間がかかるが、同事業は今年 8 月までには完成する見通しである。

ユネス氏によると、これは経済の中期的な見通しがポジティブであることを意味する。短期的には事業を進めるのは比較的簡単なことであるが、中期的となると、政府の公約の下、投資家に有利な環境整備を維持継続することが求められる。

ユネス氏は、エジプトの風土の変化を感じている—そしてそれは地球温暖化のせいではない。「モメンタムを維持する勢いがある。」残る問題はおそらく、エジプトがこれまで、投資家に対して自国を歓迎的で安全な投資先として上手にマーケティングすることができなかった点であろう。

エジプトが新時代を迎えるこのタイミングにおいて、投資家は同国における継続したプレゼンスが成功のカギであることを理解する必要がある。「変化はすぐに起こる。」運用責任者には、現地で通ずる知識に加えて機敏性と柔軟性が求められる。エジプトでのプライベートエクイティ運用を成功させるには、単純に、ロンドンやニューヨークのオフィスから行うのでは不可能なのである。

エジプト投資を成功させるために国内での確固たるプレゼンスが必要ならば、国内でのパートナー選択も同様に重要である。「その国に精通した投資家になるためには、正しいパートナーを選ぶことはもはや必須条件である。」投資家は、現実をありのままに直視する必要がある。エジプトはビジネスをするのにエキサイティングな場所であるが、他の諸外国と同様に気を付けるべき落とし穴がある。その落とし穴の場所や、物事の進め方を知っていることから、専門知識を備えたパートナーは役に立つ。

コンコードグループがプライベートエクイティ運用アプローチにおいて特出している点の一つとして、企業に関する幅広い専門知識がある。我々は金融面でのノウハウだけでなく、プロセスと効率性の最適化に必要な経営上の知識も提供する。コンコードグループには、エジプト大手企業の元 CEO など、企業業績の飛躍的な向上に貢献してきた経験豊富なビジネス経営者が多く在籍している。

ユネス氏は言う。「これは見過ごされることが多いが、重要な点である。」企業の業績は最終的に我々の投資リターンを左右することになるが、それを実際にデیلیーベースで運用することのできる投資会社は少ない。我々がこれまでに獲得してきた豊富な経験を踏まえ、コンコードグループは保有期間を平均 7 年から 10-12 年に延長することにした。そして、より長い時間的枠組みによって、起こり得る予想外の事象がもたらす景気減速などにも対応することが可能となった。このアプローチにより、コンコードグループはベンチマークや市場平均を遥かに上回るリターンという優れた結果を残してきたのである。「成功は注目を集める。しかし我々は運の良いことに、注目されることにはこだわっていない。」

[参考情報] コンコードがアドバイザーを務めたケログのビスコ・ミズル買収

米ケログは先日、1998 年に民営化された後、カイロとアレキサンドリアの証券取引所に上場した元国営企業の製菓大手ビスコ・ミズルを 1 億 2,300 万米ドル以上で買収した。

民営化から 7 年後の 2005 年、コンコードグループは同社の株式 56.2%を買収し、総額 3,500 万米ドルを投じた製造工場の改修及び規模拡大などを進めた。「我々がビスコ・ミズル社に目をつけたのは、同社の国内での力強い成長に加え、将来的に輸出増加や海外進出などを行うポテンシャルを有するからである。」とユネス氏。「新政府の発足とエジプト人の生活水準向上により、ケログはまさにこのタイミングでの同社の国内外での成長をサポートするのに適任である。」

ビスコ・ミズルの成功物語は決して例外的なケースでなく、米コカコーラやペプシコ、その他多くの大企業がエジプトでのビジネス拡大を着実に進めている。

(CFI.co Egypt: Set for Growth and Showcasing Opportunities)

■当資料の情報は信頼できると判断した情報に基づき作成されていますが、情報の正確性、完全性について弊社が保証するものではありません。当資料に掲載されている数値、図表は過去の実績を示したものであり、将来の運用成果および市場環境の変動等を保証するものではありません。■当資料は投資家の皆様へ MENA 市場のご理解を高めて頂くために作成した資料であり、証券取引法、投資信託及び投資法人に関する法律に基づく開示資料ではありません。また、勧誘、販売を目的としたものではありません。■当資料は本来の受信者の社内用途のためだけに提供されています。本資料のいかなる部分も、弊社の事前の書面による同意を得ることなく、その内容の全部または一部を許可なく使用、発信、配布または複製することを固く禁じます。© 2015 Concord International Investments. All rights reserved.